

# 広葉樹林化を考える

「広葉樹林化」ということばが、新たな森林・林業基本計画の中で出てきました。単純には、針葉樹人工林を抜き切りして、再び広葉樹林に戻すことを「広葉樹林化」と呼んでいます。背景にはスギ花粉症や、行き過ぎた針葉樹人工林化と各県での環境税の導入があります。ここでは先入観を持たずに研究を主体とした文献の検索を行い、広葉樹林育成に関連する文献の変遷を通じて「広葉樹林化」を考えてみます。検索には「林業・林産関係国内文献データベース」(森林総合研究所が所蔵する文献を検索するシステム)を使いました。

結果として、広葉樹に関する研究には明らかに流行り廃りがあり、「広葉樹施業」や「天然林施業」が廃れる一方で、最近では「森林管理」、「多様性」などの論文が増えてきていることが判りました(新山ら、2010から改変)。それに対し、「不成績造林地」や「間伐」などのキーワードは1980年代以降とされることなく発表されています。広葉樹林化は、天然林施業、長伐期施業、複層林、

従来通りの人工林施業など、多様な施業の中の一つに過ぎません。人工林が経済的に成立しない場合など、

確かに広葉樹林化が必要な林分もあるでしょう。しかし広葉樹林化が可能なかどうかの判断には、林分の前歴が広葉樹林だったのか草地・荒地だったのか、周囲に広葉樹の母樹があるのかなどの事前の評価が必要で、そして実際に抜き切りした後の広葉樹の更新状況の検証が欠かせま

せん。針葉樹人工林と広葉樹林が適切に配置され、各種の生物被害にも強い森林配置を実現するために、広葉樹林化には慎重に、そして粘り強く取り組む必要があります。

森林総合研究所東北支所

019(641)2150

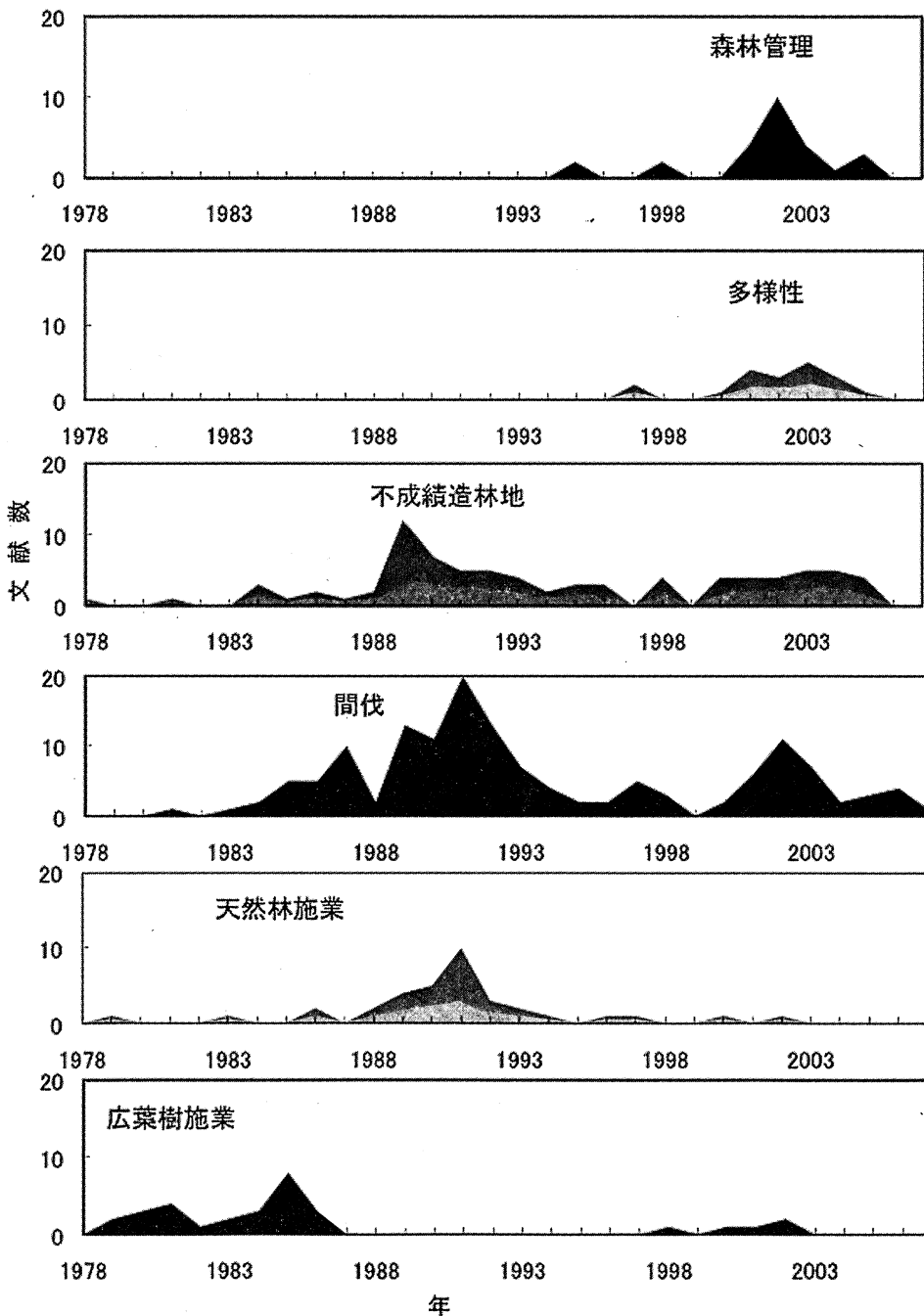


図 文献キーワードの年別変遷 (新山ら、2010を改変)